

平成 25 年度 新学術領域研究（研究領域提案型）審査結果の所見

研究領域名	ゆらぎと構造の協奏：非平衡系における普遍法則の確立
領域代表者	佐野 雅己（東京大学・大学院理学系研究科・教授）
研究期間	平成 25 年度～平成 29 年度
科学研究費補助金審査部会における所見	<p>本研究領域は、「非平衡ゆらぎ」と「時空間構造」という 2 つの大きな流れを統合し、現代科学の大きな未解決問題である非平衡系の解明に迫ろうとする時宜を得た提案である。量子凝縮系、ソフトマター、バイオマターといった多彩な物質群での非平衡現象を追求することで、その普遍性を探索する計画となっており、その研究目的も明確である。非平衡統計力学の進展により先進的な技術開発や細胞モデルの構築などへの波及効果も考えられ、多分野を含む本研究領域は、新学術領域研究としてふさわしい。</p> <p>計画研究は、研究項目 A01「基礎班」、A02「時空班」、A03「機能班」の 3 つからなり、参画する多くの研究者を有機的にまとめ上げる工夫や研究テーマ間の連携を強化する対応策が図られているなど、研究計画は十分に練られている。</p> <p>また領域代表者は研究実績はもとより、学会や国際交流におけるマネジメント実績も十分であり、総括班での若手研究者のための勉強会や公募研究における若手研究者優先枠の設定など、若手育成に関しても配慮している。領域組織は各分野の第一線で活躍している実績のある研究者から構成されており、各計画研究では中堅と若手のバランスも考慮されている。また、研究経費についても妥当である。</p> <p>一方で、多分野にわたる本研究領域の特性を反映して、同じ物理を様々な系で繰り返し確認するのみで終わってしまうのではないかといった懸念や、多分野をつなぐ概念的な牽引力を持続させるための工夫が必要になるのではないかといった意見もあり、領域代表者がこれらの点をいかに方向付けするかが今後の重要な鍵になると思われる。</p>